

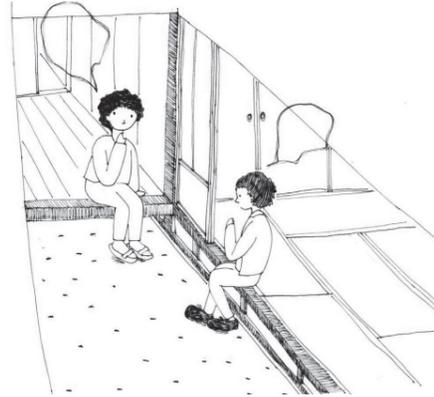
聞き取り調査から見える まちのおもてなし

奈良女子大学大学院 人間文化研究科 博士後期課程 北山 めぐみ

はじめましての方と、調査でお世話になった方もおられると思いますが、みなさま、こんにちは。私は名古屋市町並み保存地区の保全実態に関する調査を通して、自治体が行う自主的な制度による町並み保存の課題と可能性について研究を行っています。調査は、居住者の方々への聞き取り調査を主として、有松と共に、四間道、中小田井の調査を実施しています。住民のみなさまには、快くご協力頂いておりますことを御礼申し上げます。

有松では、修理、修景事業の実績が共に多く、住民の方々のご努力や高い意識がうかがわれます。更に私が感銘を受けたことは、保存地区指定以前においても、歴史的な家屋を維持しながら住みこなすための様々な工夫をされてきた点です。発展目覚ましい名古屋市内に在って、そうした波を乗り越えて維持されてきた住民の方々の努力こそが誇りであるようにも思われます。

調査では、土間や玄関の上がり框に腰掛けてお話を頂くことが多くあります。歴史的な家屋の土間がコミュニケーションの場となっていること、また、新しい家でも同じようにご対応頂けることに気づきました。それは、連綿と受け継がれてきた町並みと共に継承されてきた「まちのおもてなし」ではないでしょうか。現代生活において、ややもすると失われつつあるおもてなしを残していくヒントが、歴史を紡いできた町並みにはあるように思います。



歴史まちづくりコラム ～ 大高山春江院について ～

大高山春江院は、大高にある弘治2年(1556)創立とされる歴史ある寺院ですが、『有松の竹田庄九郎邸の一部が、明治初期に春江院に書院として移築され、現存している』という伝承があるのをご存知でしょうか？

この伝承を確認するため、昨年12月に有松の町並み調査の一環として、春江院の書院の建物調査を実施しました。調査の結果、伝承のとおり、明治初期に移築された建物である可能性が高いことがわかりました。

この書院は、床・棚・付書院のある12畳間と床付の18畳間からなり、その外側に幅1間の広縁がついています。建具や欄間が繊細で、江戸時代に描かれた狩野派の襖絵や板絵などもよく残されており、往時の有松の商家の様子をうかがうことができる貴重な建物であると言えます。意外な場所に有松にゆかりのある建物が残っているんですね。



大高山春江院の書院

～歴まち室からのお知らせ～

町並み保存補助金の相談受付中… 建物の修理・修景をご検討の方は、お早めにご相談を

現在、町並み保存補助金のご相談を受付けています（平成25年度工事実施分 東海道沿いの建物が対象）町家の耐震改修の相談も随時受付けています。建物の修理・修景をご検討の方は、お早めにご相談ください。

有松の歴史をいかしたまちづくりへのご意見やご質問は、歴史まちづくり推進室にお寄せください

名古屋市 住宅都市局 歴史まちづくり推進室 担当：坂崎、栗並

TEL：052-972-2782 FAX：052-972-4485 E-mail：a2782@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp



「歴史まちづくりトーク in 有松」を開催します

東海道の無電柱化開通式が行われる3月23日(土)の午後に、クリス・グレンさん(ラジオDJ/日本歴史研究家)、原 知之さん(NPO法人 川越蔵の会 会長)のお2人をゲストにお招きし、歴史をいかしたまちづくりをテーマとしたトークイベントを開催します。

また、地元でまちづくり活動に取り組む人、若手の絞り関係者、町並みの専門家などが集い、ゲストも交えて、リレートーク形式で有松の魅力を楽しく語り合います。

入場無料・申込不要（先着100名）ですので、みなさんふるってご参加ください。

日時：3月23日(土)

14時～16時(13:30開場)

会場：有松・鳴海絞会館

★入場無料 申込不要 先着100名



クリス・グレンさん



原 知之さん

町並み調査の中間報告会を開催します

昨年から、有松の町並みの価値を明らかにするため、東海道沿いの町並みの調査を実施しています（調査期間：平成24～25年度）。昨年は30戸の建物の実測調査を行い、有松の町並みのルーツが徐々に解明されつつあります。

これまでの調査結果について、下記のとおり中間報告会を開催しますので、是非お越しください。



東海道の町並み(調査時に撮影)

日時：4月13日(土)

14時～16時(13:30開場)

会場：有松小学校 多目的室
(7-1の下)

★調査を担当された大学の先生方からご報告を頂きます

名古屋市立大学 溝口 正人 教授、向口 武志 准教授

愛知工業大学 野々垣 篤 准教授、岩田 敏也 講師

名古屋工業大学 是澤 紀子 准教授

今後の予定

- ・平成24年度に引き続き、平成25年度も町並みや建物の調査を実施します。今年も夏頃に東海道沿いの町家の実測調査を実施する予定です。
- ・調査と並行して、有松の歴史まちづくりや町並み保存に関する説明会などを、随時開催していきます。





有松東海道無電柱化全線完成



西町



中町



東町

皆様のご理解とご協力を頂きながら、平成20年度より進めてきた東海道の無電柱化事業も、いよいよ完了間近となっています。昨年の12月には事業区間にある最後の電柱が抜かれ、東海道全線に一面の青空が広がりました。明治末期に有松に電気が引かれてから、電線越しにしか見られなかった有松の町並みが、約100年ぶりにすっきりと見られるようになったこととなります。また、中町交差点に信号機が設置され、有松線の東西に安心して横断できるようになります。

3月23日(土)には、無電柱化の全線完成を祝して、午前11時15分から中町交差点において記念式典が開催されます。また、当日は東海道一帯で様々なイベントが実施されます。

これを契機に、さらに魅力と活力あふれる有松に向けて、取り組んでいきましょう！

2軒の町家で屋根の葺き替え工事が進行中！

この冬より、東海道沿いの2軒の町家に大きな足場がかかっています。いったい何の工事が行われているの？ と気になっている方も多いかと思います。この2軒の町家は、いずれも国登録文化財となっている中濱家と棚橋家で、屋根の葺き替え工事が行われています。

いずれの町家も間口が大きく、屋根も大きいので、葺き替えは大変な作業です。連日、何人もの大工さんが屋根の上で作業を行っています。また、地震対策のため、瓦の下にある葺土を降ろして屋根を軽くする近年の工法を採り入れています。屋根の姿や形は従来どおりとし、これまでの町並みを引き継いでいきます。

現在はシートに覆われていますが、もう少ししばらくすると、瓦屋根が町並みに美しく映える景観が見られることでしょう。



中濱家



棚橋家



舗装工事の様子(西町)



信号設置工事の様子(中町交差点)

「町家ワークショップ in 有松 旧山田薬局」を開催しました

去る11月17日(土)に、東海道沿いの江戸期の町家「旧山田薬局」の座敷において、伝統を受け継ぐ手仕事(組紐・金継ぎ・書道・木工)を体験するワークショップを開催しました。この企画は、有松の町家の活用を進めることを目的に、所有者のご協力を得て開催したものです。

当日はあいにくの雨模様でしたが、地元の方、小学生、外国の方など、35名の参加者が集まり、町家の座敷が大いに賑わいました。また、通りがかりに町家の前で足を止め、一般公開した土間から座敷の様子を見学する地元の方も多数みえました。

ワークショップの参加者の感想は「有松の町並みや歴史ある町家の落ち着いた雰囲気は、手仕事にぴったり」「なつかしい感じがした」など大変好評で、こうした利用方法による町家活用の可能性があることが分かりました。

旧山田薬局では、その後、地元主催のワークショップが開催されるなど、活用に向けた新たな動きもみられるようになっています。



旧山田薬局



ワークショップの様子(組紐)

**3月23日(土)正午12:00より
西向きの一方通行となります。**

日時: 平成25年3月23日(土) 正午12:00より

区間: 中町交差点から国道302号東間

規制: 中町交差点に信号機が設置され、これより西向き車両一方通行となり、車両走行速度も30km/hに制限されます。

